

2022年度 株式会社ジェイコム九州北九州局 放送番組審議会 議事録

- 【開催日時】 2023年2月8日（水） 午前11時00分～午後12時30分
【場 所】 株式会社ジェイコム九州北九州局 大会議室
【出席者】 放送番組審議委員：6名中6名出席 ※敬称略・順不同

《会長》

甲木 正子 （株式会社西日本新聞社 執行役員 北九州本社代表）

《委員》

仲道 辰郎 （株式会社ゼンリンウェルサポート 代表取締役社長）

梯 輝元 （魚町商店街振興組合 理事長）

久保山 雅彦 （公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 理事長）

中尾 基 （国立大学法人九州工業大学 副理事 工学研究院 教授 博士）

福岡 佐知子 （株式会社三角形 代表取締役）

放送番組審議会事務局：9名出席

上村 忠 （株式会社ジェイコム九州 代表取締役社長）

上田 康夫 （株式会社ジェイコム九州 北九州局長）

藤野 慶太 （株式会社ジェイコム九州 北九州局 地域プロデューサー）

大久保 智美 （株式会社ジェイコム九州 北九州局 地域プロデューサー）

篠原 有 （JCOM株式会社 映像制作第一部 リージョナルマネージャー）

石橋 亮太 （JCOM株式会社 映像制作第一部 北九州事務所拠点長）

今石 珠貴 （JCOM株式会社 映像制作第一部）



【開 会】

1) 事務局挨拶（株式会社ジェイコム九州 上村代表取締役社長）

3年連続コロナ禍での開催となった。コミチャンに関して関しては、制限下で様々な取り組みを行った1年であった。「LIVEニュース」では、活動の幅を広げながらステップアップできたのではないかと思う。この会は、放送番組の適正を図るため委員のみなさまに放送番組を審議していただくもの。限られた時間ではあるが、忌憚のないご意見・ご指摘をいただき、地域のみなさまに密着した生活に役立つ番組制作・編成に取り組んでいきたい。

2) 議事進行（甲木会長）

委員6名のうち6名出席につき、放送番組審議会規程第4条に基づき当会は成立。

3) 新委員自己紹介

福岡 佐知子さん（株式会社三角形 代表取締役）

4) 委員挨拶

仲道 辰郎さん（株式会社ゼンリンウェルサポート 代表取締役社長）

梯 輝元さん（魚町商店街振興組合 理事長）

久保山 雅彦さん（公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 理事長）

中尾 基さん（国立大学法人九州工業大学 副理事 工学研究院 教授 博士）

5) 自主制作番組・番組編成方針説明（事務局）

4つの方針を掲げ番組編成、番組制作に取り組んだ。1点目が、視聴者に見てもらえる番組作り。「LIVE ニュース」や「WEEKLY トピックス」を中心にローカル情報を充実させた。また、内制強化による質の向上を図るとともに、NHK との研修や他局との連携でスキルをアップに取り組んだ。2点目が、アマチュアスポーツの充実。地元アスリートを応援し、市民スポーツ振興に寄与する番組「頂-ITADAKI-アスリート」を立ち上げた。また、高校野球といった注目のアマチュアスポーツ特番を実践した。3点目が、番組周知や視聴促進に向けた積極的なプロモーション活動。SNSによる双方向メディアの確立と取材先での番組案内などによる細やかな広報活動に取り組んだ。4点目が、広告売上増につながる仕組み作り。収益獲得につながる番組連携に力を入れた。

6) 2022年度自主制作番組実績（事務局）

レギュラー番組は13コンテンツで、ニュース番組や地域探訪など。「LIVEニュース」は、スタジオを飛び出し、JR小倉駅JAM広場から地域の今を紹介する番組。「WEEKLYトピックス」は、1週間の北九州エリアの情報をお届けする番組。「きたきゅうdiary2022-2023」は、北九州市の取り組みや行事をお知らせする広報番組。「ふくあじ」は、満腹・幸福感を感じ

られる地元飲食店の「おいしい」を伝える番組。「ジモトに乾杯！居酒屋ゴリけん」は、「北九州人図鑑」の後継番組。「頂ーITADAKIーアスリート」は、「ギラ★チャンネル」の後継番組で、頂を目指す選手にスポットを当て、福岡県域を対象にした番組となっている。特別番組は、「夏の高校野球2022 福岡大会」の5回戦と準々決勝の中継のほか、「ジェイコム九州杯ジュニアサッカー大会2022」、「関門海峡花火大会」、「年頭挨拶2023」、「北九州市長選挙開票速報」、「北九州市議会中継」、「きたきゅうdiary」の特別編を放送。

7) 2022年度自主制作番組に対する質疑応答

事務局：民放やNHKが取り上げないような題材を拾い発信している。なかでも、一般に広くお知らせできていない情報を市民に届けられるよう心掛けている。委員のみなさまからも広く情報提供をしていただき、地域のみなさまに発信していきたい。

委員：アマチュアスポーツにフォーカスした「頂ーITADAKIーアスリート」は良かった。メジャーなプロチームは様々なメディアに取り上げられている。中学生、高校生、大学生など学生の中にこれからのスポーツ界を支える逸材がいる。番組で紹介することにより、本人の活動の励みになると思う。また、保護者をはじめ周辺の方々に番組を見てもらえる機会となる。コミチャンの認知が上がるのではないかと思う。

委員：すべてのスポーツ、チームをまんべんなく取り上げることは難しいと思う。他メディア、他媒体が取り上げないスポーツやチーム、選手にスポットをあてた番組作りの視点は良い。長く続けていただき、地域のスポーツを応援して頂きたい。

委員：お祭りの特集はうれしい。当日の様子を見ることができないので、祭りに参加している人にとって、映像に残るものがあるとありがたい。文化という面で考えると、北九州は音楽が盛んな街だと思う。ライブハウスもたくさんあり、音楽に触れる機会も多い。音楽の特集番組を企画されてみてはどうか。

委員：「LIVEニュース」に関して、前回の審議会において「キーステーションから放送するのであれば地域の人たちの声を拾ってみては」との意見を述べたが、今回の番組では改善されておりとても良かった。昨年に関しては、且過市場の火災が衝撃だった。復興に向けて取り組んでいる人たちへの取材は大変良かった。番組を通じて、地域の動きなどを知ることができる。民放・NHKで見ることができない情報を取り上げている点は良い。北九州市長選の特番は、民放・NHKとは違う視点での内容（開票速報）でよかった。（北九州芸術劇場の館長を務めているが）北九州芸術劇場では、様々なイベントを行っている。主催者の許可が必要だが、今後、情報提供できればと思う。

事務局：ジェイコム九州北九州局は、北九州芸術劇場のネーミングライツを獲得させていただいた。（北九州芸術劇場が入っている）リバーウォーク北九州とその周辺も盛りあげたい。リバーウォーク北九州周辺の盛り上げができないか、そのようなことを考えている。地元を盛り上げることが使命だと考え、取り組んでいきたい。ご協力をお願いできればと思う。

委員：番組で旦過市場を取り上げていただきありがたい。「LIVEニュース」に関しては、昨年に比べ音響が良くなって聞き取りやすくなった。温度計を置き現在の気温をお届けするなど、もっとライブ感を出すことができればよいのではないかと思う。

事務局：キーステーションに温度計を置いているが、現場の温度と番組で表示する天気予報の温度にズレがある場合は、混乱を避けるため温度計を使用しないようにしている。夏場の地面の温度を情報として伝える場合などは使用している。現在は、使用してないことが多いが、状況をみながら温度計の使用を判断していきたい。

委員：「北九州人図鑑」と「ジモトに乾杯！居酒屋ゴリけん」に出演させていただいた。番組出演をきっかけに、MCの方や番組出演者、その関係者と交流の輪が広がった。

8) 番組審議「LIVEニュース」

事務局：審議対象番組「LIVEニュース」は生放送でお届けする地域情報番組。今年度は、キーステーション（中継先）を変えて放送している。たくさんのゲストに出演していただくことで、より多くの人たちに見てもらえるよう工夫している。また、若者をターゲットにした企画を展開。（ハロウィン、大学連携によるコーナーなど）火災に見舞われた旦過市場の情報は定期的に紹介している。そのほか、新聞形式で旬な話題をお届けするコーナーも新設した。

《番組視聴》LIVEニュース「旦過市場の火災から1カ月旦～過市場のいま～」

委員：被災した旦過市場の店主の思いが熱く語られていた。そのような生の声がクラウドファンディングなどの支援につながったのではないか。継続の取材を希望する。

委員：Twitterをフォローしているが更新が少ない。放送後の投稿だけでなく放送前に投稿してみてはどうか。興味を持ってもらい、視聴につながるのではないか。

事務局：再放送に向けた投稿が中心。今後は事前に番組情報をお届けできるよう取り組む。

委員：コロナの状況は日々変わっていてコロナ関連の情報の取り上げ方は難しいと思う。劇場ではコロナの状況により利用に関する基準などがかわる。（座席、ステージから座席までの距離など）現在の劇場の状況を知らない人が多いと思う。コロナの状況により変わっていく情報を丁寧に発信してもらいたい。全国的な動きとは別に、北九州の動きを伝えてもらいたい。

事務局：コロナに関しては感染者数を発表するのではなく、今どのようなステージで、どのような対策が必要なのか、国の発表に基づいた情報を正確に発信していきたい。

9) ジェイコム九州北九州局の地域プロデューサー活動の紹介（事務局）

地域プロデューサーは、地域のステークホルダーの方々と良好な関係を築き、J:COMの地域でのステータス向上につなげる目的で、今年度は3つの活動に取り組んだ。1つ目が、自治体事業の運営。ラグビー国際マッチ気運醸成トークショー、門司港プロモーション事業などの企画・運営、スペースラボ来館30万人式典など式典運営、豪雨対策のPR動画制作などを行った。2つ目が、民間事業の支援。北九州チャンピオンズカップ国際車いすバスケットボール大会のYouTube配信やJ:COMメディアを活用した企業PRなどを行った。3つ目が、地域貢献・CSR活動。少年ソフトボール大会、少年サッカー大会の主催開催や、今年度、特に力を入れている子ども食堂の支援として子ども向けオンライン社会科見学も実施した。このような活動に対するリクエストも頂きたい。地域プロデューサーの活動は、地元企業として地域に何ができるかというものだが、次のステージとしてCSV（共創価値の創造）活動に取り組んでいく。経済の循環を活性化することも考え活動する。例えば、関東で先行して行っている遠隔医療。北九州エリアでは4月以降開始する予定。各病院の賛同が必要だが、これを進めることで、病院側は収益の拡大、地域の人たちの役にも立つ。CSVを推進するためにも、活動を強化していくことを考えている。活動にご賛同いただければと思う。



10) 閉会挨拶（株式会社ジェイコム九州北九州局 上田局長）

委員のみなさまから頂いた貴重なご意見は、今後の番組制作に活かしていきたい。今後とも、J:COMへのご支援を宜しくお願い申し上げます。

以上